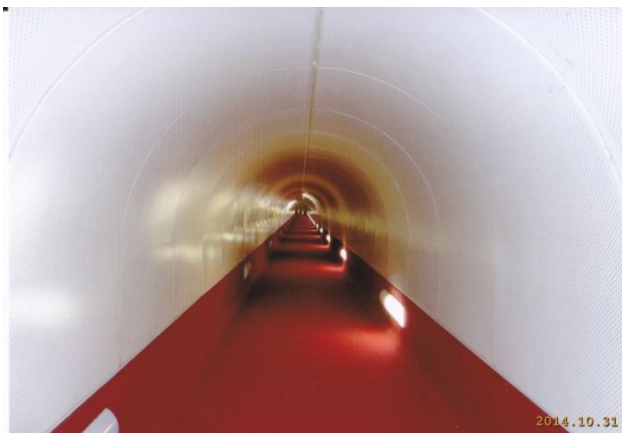




枋の木からの手紙

2014年 12月号



幾らか速度オーバーのきらいのする時の流れ。

箱根神泉郷から始まった今年1年も、熱海瑞雲郷の水晶殿につづく時空のトンネルをそれぞれの環境を背負って歩いていたのだろうか？代わり映えしないと思える様な日々の生活・一年も、良い事も悪い事も振り返って見るときのうの事の様に思える。通る度に生まれ変わり生き変わる様な気がする水晶殿へ続く不思議な隧道。さて、新しい年を迎える準備をしましょうか。

1日：びほろ元気なまちづくり講演会 羽住 英一郎
びほーる 開演18時30分 入場無料

6日：満月 旧10月15日

7日：大雪

11日： 地域包括ケアシステム講演会
演題 「今、地域で求められているもの」
しゃきっとプラザ1F 18時 ~ 20時

22日：冬至
新月 旧11月 1日

12月 師 走						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2014年秋 シネスイッチ銀座ほか、
全国順次ロードショー

うまれる
ずっと、いっしょ。



11月末に津別町公民館で“うまれる”が、複数回上映されました。

この映画の第二弾として“うまれる ずっと、いっしょ” という映画のロードショーが始まりました。テーマは“命・家族・絆”。大きな町の映画館でしか上映されませんが半年後には、自主上映が可能になります。この映画の監督の豪田トモさんは、ナレーターの樹木希林さんの考

方に感銘を受けたといいます。それはお釈迦様の、弟子“提婆達多”（弟子でありながら反逆し、お釈迦様を殺害しようとした。）に対する考え方でした。

自分と考え方の違う人物について、
自分に敵対してくる人物について、

決して“嫌な奴”とか“敵”という感情的な概念ではなく「全ては自分を成長させてくれるありがたい存在である。」という考え方。希林さんは、「夫は、私の提婆達多として自分を成長させてくれた人でした。」という。



ざっそう

2014年 12月号

先月号で、「自然農法栽培の芋は5月中旬に畑に植えて8月中旬から9月中旬には収穫します。畑は4ヶ月間芋の栽培をしますが、残りの8ヶ月は何をしているのでしょうか?」と書きましたが、これは芋の連作を行う 林ツ高橋農場の自然農法の圃場の場合です。

今回は、遊んでいる? 8ヶ月間は何をしているのか紹介させていただきます。

2013年	資材と作業内容		使用量	目的
11月 30日	醗酵ケイフン	機械散布	反 97kg	土壌改良 (微生物活性)
12月 13日	米糠	機械散布	反 65kg	土壌改良 (微生物活性)
2014年				
3月 4日	おーい北海道有機質資材	手散布	反 26kg	融雪・微生物活性
3月 28日	おーい北海道有機質資材	機械散布	反 7kg	融雪・微生物活性



3月 4日



4月 17日

年前の根雪の上に米糠を散布すると春の雪融け時期に米糠に多様なカビが繁殖する。

おーい北海道を雪上に散布するとカビの種類として白い毛カビが多くなる。左写真の様に雪融け部分が薄らと白くなっているが、毛カビが繁殖している部分です。これが、土を良くしてゆくと思っています。

5月 12日	心土破碎	機械作業	畑に 30cm 程のスジを 66cm 程の等間隔で切、水はけを良くして、土中に春の熱や空気を入れてあげる (微生物活性)。
5月 15日	整地	機械作業	土を細かく砕いて均す。除草効果も。
5月 20日	心土破碎	機械作業	
5月 20日	整地	機械作業	畑表面の凸凹を均す。除草効果。
5月 21日	整地	機械作業	芋播種床作り。畑表面の土を細かくする。
芋栽培期間	5月 21・22日	芋播種	(カッコウ初鳴き 5月23日)
	8月 22・23・29日	茎葉処理	芋の茎を刈払い、芋の成長を止める。 除草効果。
	9月 25日	芋の収穫終了	
9月 28日	整地 (浅く)	機械作業	畑表面の残渣物を浅く土にすき込み分解を促進。除草効果。
10月 1日	堆肥散布	機械作業	反3ト 麦稈ロール5巻と麦稈堆肥を混ぜて醗酵させた堆肥。 切換えしは一戸氏の教えを参考に、1・1・2・4。
10月 8日	整地 (深く)	機械作業	散布した堆肥を土にすき込み土中微生物を活性化し醗酵促進。 除草効果。
11月 23日	心土破碎	機械作業	縦畝と左右の斜めの心土破碎で、普通の3倍の作業をする。 土の硬い部分を破壊する事で来春の播種作業時に等間隔で作業出来る様にする。 来年に向けての雑草対策、排水対策。
12月??日	米糠 他	機械散布	根雪を待って散布します。

年明け2月3月にも有機質資材を雪上散布しますが、8ヶ月は土作り期間。作物を育てている4ヶ月は試験期間。収穫する時が最終の結果発表。8ヶ月の過ごし方が試験結果に影響しますが、毎年の積み重ねが大切。